



招待選手のゼッケンをつけた千葉真子さんと一緒にスタートする子どもたち



アユの塩焼きも好評



選手宣誓は黒坂の長尾さん親子



J A 女性会の皆さんと気さくに話す千葉さん

各地から集まったマラソン愛好者が健脚を競う恒例の鵜の池マラソン大会が7月29日、鵜の池湖畔で開かれました。大会には、町内をはじめ、県内外から約300人の選手が参加したほか、第30回大会を記念し、マラソンランナーの千葉真子さんを招待選手に迎え、盛大に行われました。コースは、2・3キロ、4・6キロ、6・9キロの3コースで、年齢・性別による17クラスに

分かれて競技が行われました。招待選手の千葉さんは3つのコース全てを他の選手とともに完走、さわやかな笑顔で大会を盛り上げました。会場では、みそ汁無料サービスや各種団体のバザーがにぎやかに行われたほか、地域住民や学校関係者、県職員などによるボランティアスタッフの協力もあり、無事に大会は終了しました。

湖畔を吹き渡る風になる

第30回中国山地日野鵜の池マラソン大会

大会結果

〔町内入賞者のみ紹介、敬称略〕

- ▼Bクラス(中学生女子2・3キロ)
 - 第2位||松本 優奈
 - 第3位||窪田野々花
 - 第4位||遠藤 秀美
 - 第5位||橋本 愛果
 - 第6位||大垣明日香
- ▼Hクラス(小学生男子2・3キロ)
 - 第2位||名越 廉
 - 第5位||山本 龍星
 - 第6位||景山 勇気
- ▼Iクラス(中学生男子4・6キロ)
 - 第1位||長住 雅之
 - 第2位||池末 裕輝
 - 第3位||檀田 大輝
 - 第4位||佐々木健太
 - 第5位||久留馬翔平
 - 第6位||松本 俊幸
- ▼Kクラス(20歳以下男子6・9キロ)
 - 第4位||長住 康司
- ▼Lクラス(30代男子6・9キロ)
 - 第2位||池岡 弘紀



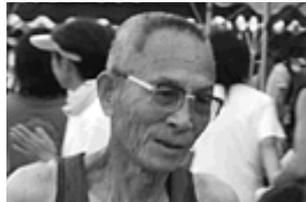
それぞれのペースで完走を目指す



緑に囲まれ起伏に富んだコース



白いテープを切るのは最高



ゴール直前の表情さまざま

夢に向かって走りたい

千葉真子さん講演会

鶏の池マラソン大会前日の7月28日には、千葉真子さんの講演会（D.O.スポーツ主催）が町文化センターで開かれました。

「命を輝かす人間」という演題の講演では、マラソンを始めたきっかけや挫折を味わった経験、これからの夢などが千葉さん独特の明るい個性でさわやかに語られました。

千葉さんは、「15年間陸上競技を続け昨年引退しましたが、その間に走った距離は地球3周半。今では全ての試合が宝物です。ゴールした瞬間に思っているのは、『目標があつてよかった』ということ。目標を持って努力すれば世界で戦うこともできるんだということに自分でも驚きました」と話し、また、「目標に向かって全身全霊で努力してきたことで、一人の人間として強い心、優しい心を育むことができた

と思う。『命を輝かす人間』

という言葉は、中学校の校門の横に刻まれていたもの。せつかく生まれてきたんだから命を大切に、命を輝かせたいと思う。今では私の人生のテーマになつていまして」と話しました。

最後に千葉さんは「スポーツは平和の象徴。いつまでもスポーツが楽しめる

世界であつてほしい。私の目標はいつか指導者としてオリンピック選手を育てること。これからも夢に向かって走りつづけたい」と締めくくり、その後客席からの質問にユーモアを交えながら答えるなど、参加者らとの楽しいひとときを過ごしました。



「自分の人生の主役は自分。自分を大切にしたい」と語る